



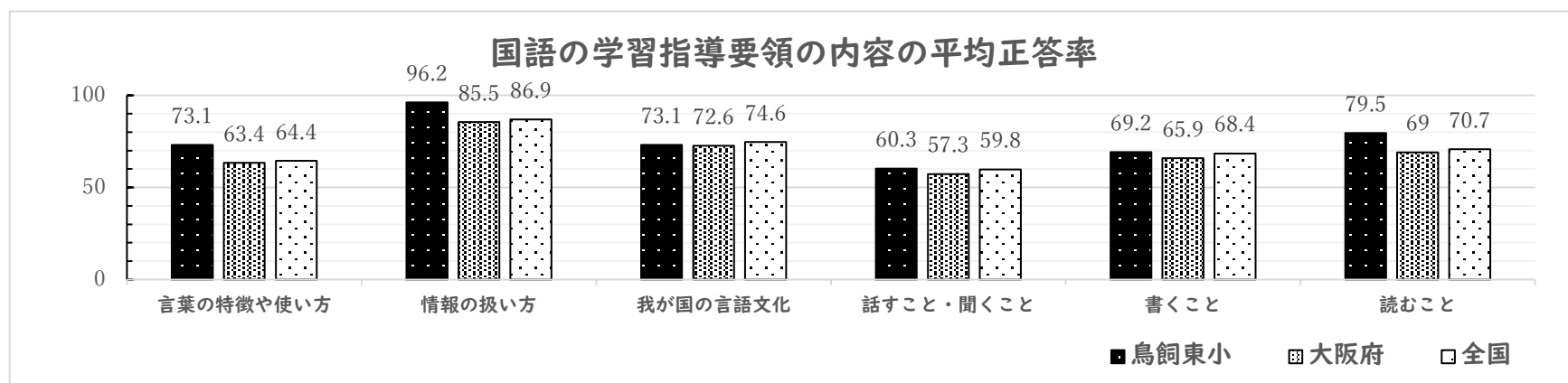
保護者・地域のみなさまにおかれましては、日ごろから本校の教育活動にご理解とご協力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

さて、本年4月に実施いたしました全国学力・学習状況調査の本校の結果をまとめましたので、その概要をお知らせします。本校ではこの調査結果を踏まえ、児童の学力向上に向けて、各教科の指導計画や日常の授業改善に引き続き取り組みます。

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

	国語		算数	
	正答数	正答率	正答数	正答率
鳥飼東小6年生	10.2／14問中	73%	9.7／16問中	61%
大阪府	9.2／14問中	66%	10.0／16問中	63%
全国	9.5／14問中	67.7%	10.1／16問中	63.4%
対全国比	1.07		0.96	

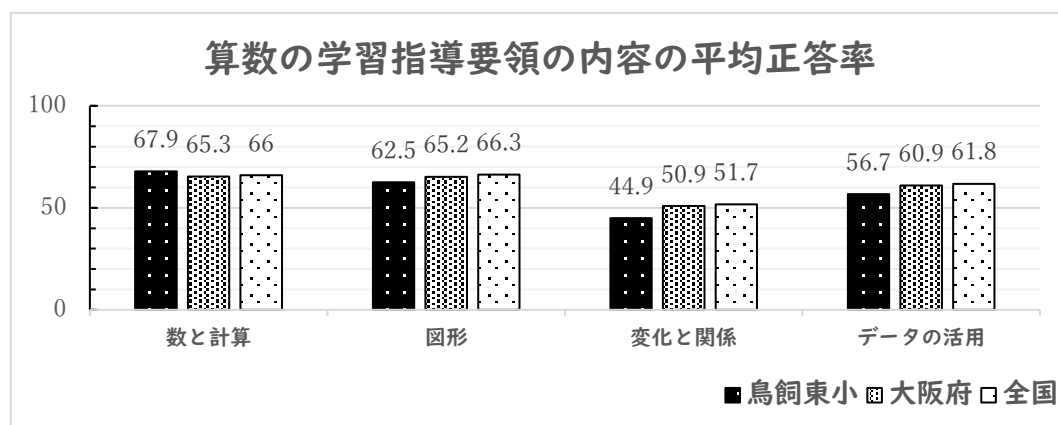
国語・・・全国の平均正答率と比較して「高い」結果でした。



どの領域においても、よくできていました。特に、文章を読み取り、感想や自分の考えを書き表すことやメモのとり方やメモの活用、漢字も身につけていることがわかりました。読むことがよくできており、物語を読んで心に残ったところとその理由をまとめて書く問題は、記述式にも関わらず、全国平均と比べて20%も上回っていました。これまで積み上げてきたことが表れています。一方で、伝え方の工夫を考えたり、整理メモから発表の仕方を考えたりする問題については全国平均より低い結果でした。国語の時間だけでなく、いろいろな場面で伝えることについて取り組みを進めていく必要があります。

算数・・・全国の平均正答率と比較して「やや低い」結果でした。

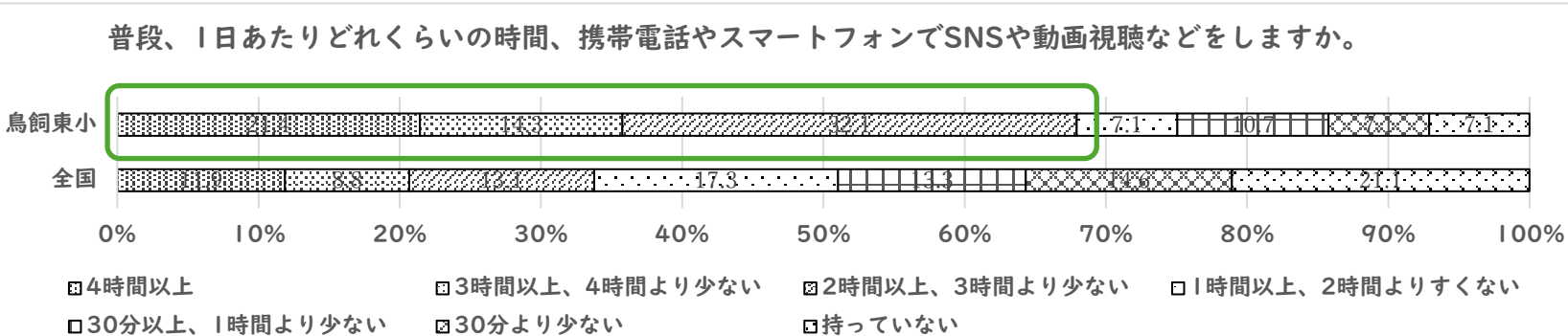
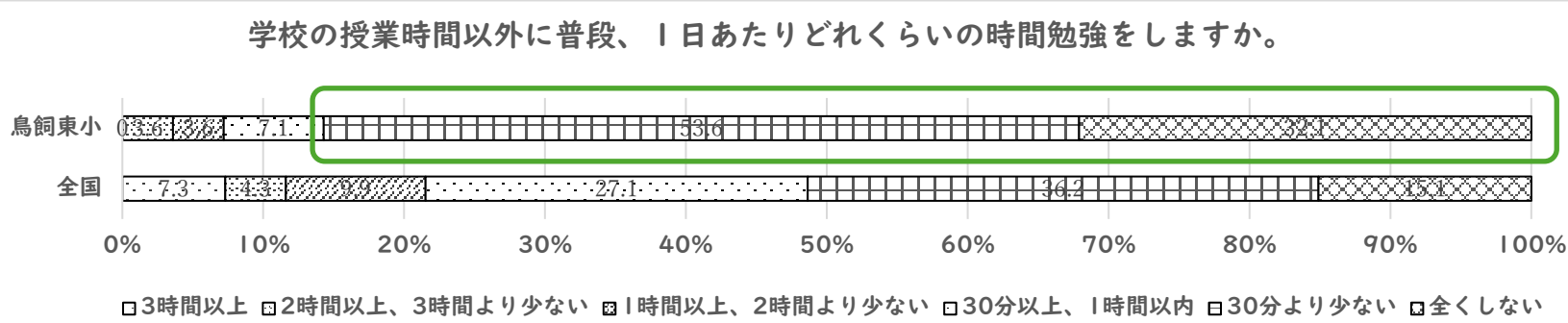
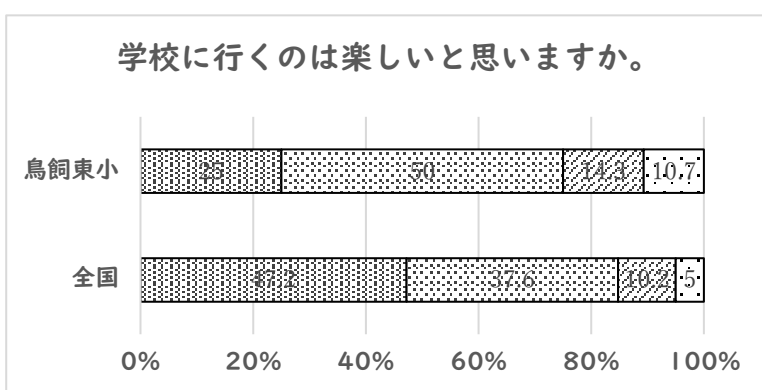
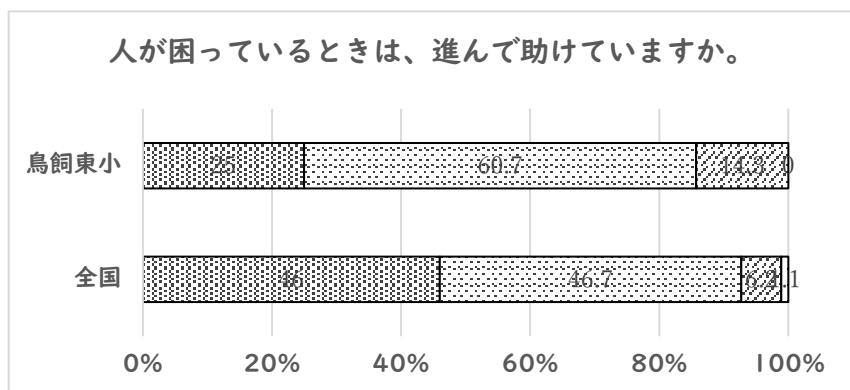
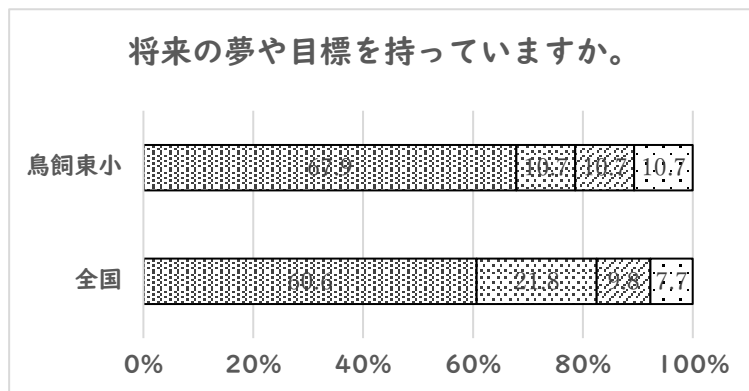
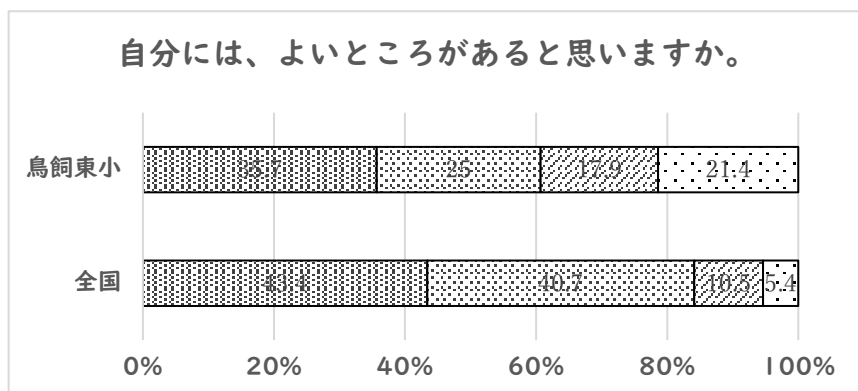
数と計算の領域においては、全国平均を上回りましたが、他の領域に関しては、全国平均を下回る結果でした。割合や単位量あたり、速さの考え方、場面に合わせた立式はよくできていました。一方で、図形の関係やグラフを読み取ったり、読み取ったことを表したりすることや自分の考え方を表す問題は全国平均を下回る結果でした。特に、データからわかることを読み取ることに課題が見られました。データを読み取ることは、算数以外の教科でも必要な力です。読み取ったり自分の考えを表すことをいろいろな場面で取り入れていく必要があります。



どちらの教科ともに、無解答率がほぼ0でした。何かしら必ず自分の意思表示をしているということです。課題に対して前向きにあきらめずに取り組む姿勢が素晴らしいです。

質問紙調査

グラフは、左から「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」の回答の割合



児童質問紙調査から、将来の夢や目標を持っていますが、自分によりよいところがあると思っている児童が全国平均より少なく、また、学校が楽しいと感じている児童も少ないことが課題ととらえています。また、毎日の家庭学習の時間が30分より少ない、全くしない児童が85%近くおり、スマートフォンの利用が2時間以上の児童が70%ほどいることも気になります。放課後学校で宿題をしてから下校する児童も多いですが、家庭で学習する習慣を身につける取り組みをさらに進める必要があります。

今後の取り組み

- 毎学期、計算力診断テストを行い、それぞれのクラスで課題になるところを中心に「トリトン算数」の時間などに習熟を行います。
- 外部講師を招聘し、研究授業などを行い、自分の考えの表し方や伝え方の工夫などを身に付けることができるような授業改善の推進を行います。
- 五中校区での「こどもの発達を支える生徒指導に関する学校づくり」の取り組みを継続し、自分たちで考えて行動し、達成感を持つなど自発的・自治的な活動を充実させます。
- 学校と地域・家庭が連携し、子どもたちを支える取り組みが進められるよう、学校からさまざまなことを積極的に発信し続けます。